

製品名: AASD-PPT ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06381**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	36kDa

抗原情報

遺伝子名	AASDHPPT
別名	AASDHPPT; CGI-80; HAH-P; HSPC223; x0005; L-aminoadipate-semialdehyde dehydrogenase-phosphopantetheinyl transferase; 4'-phosphopantetheinyl transferase; Alpha-aminoadipic semialdehyde dehydrogenase-phosphopantetheinyl transferase; AASD-PPT;
遺伝子 ID	60496.0
SwissProt ID	Q9NRN7
免疫原	抗血清はヒト AASDHPPT 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 11-60

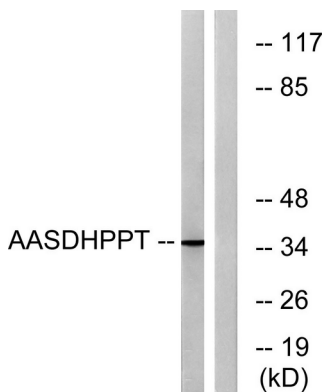
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、リジン生合成経路における α -アミノアジピン酸脱水素酵素の活性化に必要なサッカロミセス・セレピシエ LYS5 と類似している。酵母の α -アミノアジピン酸脱水素酵素は、 α -生合成アミノアジピン酸セミアルデヒドを α -アミノアジピン酸に変換する。ヒト遺伝子の欠陥がピペコリン酸血症を引き起こす可能性が示唆されている。[RefSeq 提供、2008年7月]、触媒活性: CoA-[4'-ホスホパンテテイン] + アポ-[アシルキャリアタンパク質] = アデノシン 3',5'-ビスリン酸 + ホロ-[アシルキャリアタンパク質]。補因子: マグネシウムイオン 1個に結合する。機能: ホスホパンテテインによる標的タンパク質の翻訳後修飾を触媒する。補酵素 A の 4'-ホスホパンテテイン部分を、FASN のアシルキャリアドメインなど、幅広い受容体のセリン残基に転移することができる。PTM: DNA 損傷時に、おそらく ATM または ATR によってリン酸化される。類似性: P-パンテテイン転移酵素スーパーファミリーに属する。AcpS ファミリー。サブユニット: モノマー。FASN と相互作用する。組織特異性: 心臓、骨格筋、胎盤、精巣、脳、脾臓、肝臓、腎臓で検出される。、

研究分野

リジン生合成;リジン分解;

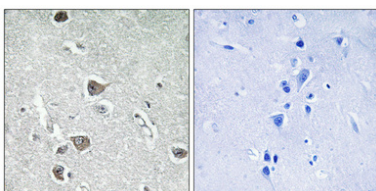
画像データ



AASDHPPT 抗体を用いた COLO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーン
は合成ペプチドでブロッキングされている。



AASD-PPT ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。

